

2013年03月13日 原発地震・災害

——「東京電力福島原子力発電所事故調査委員会法」ができて、委員長はなかなか決まりませんでした。

黒川 法律が成立したのは9月末で、10月かな、委員の選定がすごく難しく、先生も候補のひとりになってますよ、なんて言われた。私も、それまで「独立した調査組織が必要だ」って言うていたからね、頼まれたら断るわけにはいかないなど。まあ、いろいろあったらしいけど、引き受けることになった。そのとき、国会の事務方に2つ頼んだんですよ。9人の委員は国会でもう決まっていたから、辞令交付の日までにひとりひとりと私の面会の時間作ってくれということ。もう1つは、辞令が出たその週かその次の週までに、一泊二日で全員で福島に行くということ。国会では辞令交付が12月8日。それまでに全員と面接しました。意気込んでいる人もいるし、何をやるかわかんないという人もいた。全員に（スリーマイル島事故の）ケメニー報告を見せて、このときの12人の委員と同じような役割を期待するといった。全体像を委員全体で作るのが大事。信用の問題だからね。そういう委員会ですよって話をしたわけ。で、納得したようなしないような顔をする。人によって違うんだけど。だけど、それを辞令をもらう前に言っておかないと、途中で勘違いし始めて自分の意見を通そうとされても困るから。蜂須賀（禮子）さんは、だいたい何でわたしが選ばれるかわかんないと。

——それはそうでしょうね。福島県大熊町でお花屋さんをやっていた女性ですね。大熊町商工会会長でした。

黒川 普通の人。だからいいの。ケメニーレポートにもちゃんとそういう人が入っているとお話ししました。それで、辞令交付の国会最初の委員長挨拶で、キーワードを「国民と未来と世界」って言ったのね。「国民」というのは、「国民の国民による国民のための委員会」だとわたしは認識してますということ。「未来」は、今原子力はルネッサンスっていうんだけど、未来の思考をするためには、過去にさかのぼって歴史を調べなくちゃいけないと。過去を振り返って過去から現代という窓を通して未来を見なくちゃいけない。「世界」とは、これは世界的に非常に大事な問題だとみんな思ってるわけだし、注目しているから、この委員会を通じて、世界の叡智と知識を集めていくプラットフォームにしたいっていう話をしたわけです。それで、参加者が一人ずつしゃべって、また最後に委員長が挨拶を2分って言われたのでね。で、今日は真珠湾攻撃に行ってからちょうど70年目だっていう話をしたんですよ。

——12月8日ですものね。誰だってピンと思いますよね。

黒川 そのころにNHKの原発事故の特集があつてね。だいたい「太平洋戦争生き残りの証言」っていうテレビ番組を8月に特番でやるでしょ。だけど、福島の特集がちょうどそのころあつたん

ですよ。元通産省の局長とか、東電の副社長とか顔も出てるんだけど、いろいろ言っている。それを聞いていると多くの国民は、太平洋戦争の生き残りとか、なんか同じだなど思っているに違いないって言った。その背景はいったい何なのかを考えてみたいと言った。これは、責任ある立場の人たちが反省しない人たちっていう意味。失敗から学ばない人たちっていうふうな意味で言っただけ。

——それが英語版の前書きで「この事故は made in Japan」とおっしゃった意味ですか。

黒川 そう、それを言っている。日本文化の問題だといったのも、あいまいなまま話を進めるとか、日本語には上下関係が自動的に入っちゃっているとか、論理的でないとか、ふだんから感じていることがいっぱいあるからです。そういう社会で、選ばれた委員だけでこの調査なんてできるわけない。だから、まず調査統括をやる人を引っ張って来なくちゃと思った。思い浮かぶのは、2、3人しかいない。独立していて、半年だけこの仕事をして、しかも心の中では霞ヶ関的なことの限界が理屈じゃなくてわかっている人じゃなきゃ絶対無理だ。で、宇田（左近・ビジネス・ブレイクスルー大学大学院教授）さんに電話したわけ。15分ぐらいやりとりして、「やりましよう」っていうことになった。これでよかった。それじゃないと無理だよ。それから、そういう独立した精神を持った人脈があって、宇田さんも必死になって人集めとかいろいろやってくれた。大手の弁護士事務所から若い弁護士5人ぐらいが来た。だけど大手の弁護士事務所は、ほとんど電力会社と関係がある。（笑）

——そうでしょうね。

黒川 だけど、交渉してさ。あとは国会のスタッフ6人。事務局長は、安生（徹）さんをお願いした。経済同友会のスタッフをやっていた人です。

——第1回委員会は福島市で開かれました。前日に福島第一原発と除染の現場を視察したんですね。

黒川 最初に行って良かったですよ。委員一人ひとりがそれぞれ感じることもあるし。委員会の後の記者会見で、みんなに所感を言ってもらった。

——2回目は1月16日。

黒川 1回目はスタッフ集めの最中に開かれたからね。準備がいろいろ大変で、情報セキュリティーのためにパソコンや携帯電話はみんなレンタルでこれしか使わないようにしようとか、そういう交渉が大変で1ヶ月経った。2回目から英語の同時通訳を入れることにした。このときは憲

政記念館でやったけど、ここだと準備が大変だっというので、その後は国会の中で。国会の中で同時通訳を入れられる場所っていうのが衆議院の委員会室1ヶ所しかないんです。あとは参議院議員会館の講堂。4月、5月、6月はもうクレイジーだよ。みんな24時間寝泊まりしてるぐらいだから。原稿を何回も読み合わせするんだけど、委員みんな自分のところしか見てない。時間ないから。けっこう最後は大変だったけど、本当にみんなよくやってくれた。(続く)